

々皆さんが御希望のより内容を豊富にこいふこみを皆さん自身編輯の人達をお助けして實現されんこみを切に希望致します。思はず話が脇道に外れましたが、ブレアデスの距離さか光度ミカ等こいふものに就ましては、私よりも却て皆さんの方がよく御存じの事と思ひますから、こゝには省く事にして最後に一寸、一言、ブレアデスが冬夜の星々である爲に私達にかく迄も懷まれるこいふこも、即ち星こいふものは、是を仰ぐ人に、季節によつて、その見る感情を異にするこいふこもをお話したいと思ひます。それは、例へば、このブレアデスに致しましても、私はこれが運よく冬空に現はれたが爲にその親しさや懐しさをかく迄も私達に認められたのではないかと思ふのです。假に若し、このブレアデスが春の宵空に現はれたらして御覽なさい。私達はその時は恐らくは、今より一層淡く瞬くであらう微かなこれらの星々に對して蟹座のブレセーベ程にさへも感ずるこみはないでせう。實際この澄み切つた霜枯れの寒空に、池の凍りつく様な透徹した群星の輝きに立交つて居てこそ、始めて、あれまでの優しみと懐しみと、そして魅惑的な感情とを與へる事が出来るのではないでせうか。若し之れが生温い夏の宵なごに、ほんやり出て来たのでは左迄の興味もひかなかつたのでは御座いますまいか誠に星は季節によつてその感情を異にする。ブレアデスは此冬空にあつて、始めて私に之だけの情操を與へたので御座い

ます。私の好きなブレアデスは、必ず冬の夜空を飾る星々でなくてはならないのです。

では皆さん。私は私のブレアデスを通じて、皆さんに、皆さんがお互に天界の爲に、ひいては私達人類の爲に、近年の中になり、私達會員の数が、あのブレアデスのそれにも優つてより多くなり、御奮闘を希望いたして置きます。「ブレアデスミ私」これで打切りを致します。……終り……

大阪市教育會天文講演會

去る十月二十六日午後二時より船場小學校に於いて天文講演會を開催し講師理學博士山本一清先生の「太陽と其の黒點活動」の講演があつた。定刻已に三百の聽衆が押し寄せた。大阪市教育會主事松本朝吉氏その他幹部列席の上理事吉岡哲夫氏の開會の辭あり。天文は趣味としても有益なものであり殊に教育上天文知識普及の大切な事特に太陽と人生の關係の重大なる事より今日の所掲の演題のこに講演會を開くに至つた次第」を述べられた。引も續き講演に移り、山本博士が「太陽の起原、太陽の大きさ、黒點とは何ぞ、黒點の地球上に及ぼす影響」等の項目に互り、約二時間餘、素人にも徹底する様懇々説明あり、聽衆をして「太陽の偉大なるこも、黒點の正體は何であるか」を得せしめられ、最後に黒點の地球上に及ぼす影響としては、黒點活動は太陽磁氣の影響を地球磁氣の上にも及ぼすべきは確かなるこも世間に流布せられたる如き迷信的の影はあはるべきでないこもを力説し、以て一般の迷信打破に有益なる反響を與へられ、講演終つて、引きつゞき天文幻燈を以て天文的事實或は歐米の天文臺等の紹介あり、一層興味を喚起せられた。大阪市教育會は、此の舉により、一は天文知識を普及し、一は天文の趣味の喚起上多大なる効果を收め得たるこも、信じて會況大要を誌上に報告するこもした。(M、T生記)

返して申しました。

科學は人間を彼れ自ら向上せしむるものである。こゝ

ほんまに自然に親しみを覺えた人は幸福であります。常に何か尊いものによつて力づけられるからです。この何物か力強いものによつて向上せしめられ淨化されるからです。そこに人間の誇りがあるのではないでせうか？實に星空の美は世の如何なる美しいものにも優れて美しく奥床しいものです。而も何人も之の美しさを樂しむことが出來ます。石炭文明に酔ひ快樂を求めて止まざる現代の人はもう少し自然に親しんでもよいと思ひます。私達は自然の恩澤を拒否するなくして人生を全うする様に、幼い頃からもつこもつこ教へられてくるべき筈なのに、この立場からして私は幼いもの（一敢て年齢の上の幼いものでなくともいゝと思ひますが）の爲めに心から力を致す人の一人たりとも多からん事を切に願ふものであります。（十月廿五日）

○京都帝國大學第三十一回金墮特別講演

左の通り、

目下開期中。——法學部大講堂で、毎回午後四時十五分開會。入場隨意。

題「近代の天體宇宙觀」

理學博士

山本一清氏

(十一月二十日)

一、ハリーセル以前

二、ハリーセルの宇宙研究

(同二十七日)

三、天體の距離

四、星の數如何

(十二月四日)

五、星の固有運動

六、星の視線運動

(同十一日)

七、星群と星團

八、星雲の諸問題

(同十七日)

九、天體の物理

十、宇宙の進化

——上海より——

前略

先日來基青の前田氏等發起で天文の會云ふのが出來ました、私も私の事業の都合で積極的の活動は出來ませぬが、何は置いても出來得る限りの力を同會に盡したいと思つて居ります。九月二十六日夜當地の日本人高等女學校で丁度時節仲秋の月の會が開かれツァイス、ゴルツ、ロス、二吋半から三吋の四本の望遠鏡が晴天の八日の月に向けられ、西方印度寺の圓屋根に落ちかゝつてゐる土星、月の光りも眩せぬ美しい木星等を觀測し閉會八時半の豫定が九時過ぎても未だ生徒達は望遠鏡を離れず私共しても實に心嬉しく思ひました。恐らく此の大上海が開けて以來、四基の望遠鏡が並んだ事は當夜が嚆矢だと思ひます。

十月三日

森 義 清

山本先生

雑報

●木星の四大衛星 小望遠鏡で容易に認め得る木星の四大衛星の表面の模様が研究されて居る。と言へば多くの讀者は驚かされて置く。視直径は僅かに一・五秒、一里向ふの五錢白銅の大きさもないものがあるが現在の五吋望遠鏡によつて其の形状を知り得るけれども其の表面の模様に至つては十吋級のもので幸じて認め得数十吋の望遠鏡によつても容易に其の正體を檢出する事が出来ない。第一、二、三、四に Io, Europa, Ganymede, Callisto. といふ名が付いて居る。ハーセルの頃からすでに自轉時間の決定が試みられては居り一八五〇年頃よりラッセル・ウエブ等によつて表面觀測が始められて居たが一八七一一八九一年に互るモーレスウォース氏の各衛星の色及び光度の觀測が發表されるまで餘り注目されなかつた。一八九〇及一八九三年リックのパーナード氏は大三十六吋により第一衛星が木星の表面經過の際其の面の延長し楕圓形を呈せる事より觀測の結果面の兩極が多少暗き事を發見第三衛星上に不規則なる模様を觀測した。自轉及公轉が多少異なる事も知つた。一八九二年ヒケリング氏はベルのアレキバに於て十三吋を使用しダグラス氏の助けを得て第一衛星が楕圓形をなし自轉時間が十三時間三分なる事を知つた。しかも軌道上の各點に於て楕

圓形の形状を異にするを知つた。楕圓説には賛成説も反對説もあつた。

ヒケリングは一八九四年ローエル天文臺に於て觀測、總ての衛星が楕圓形をなし第二以外に模様を發見した。第一衛星の自轉時間十三時間三分第二衛星四十一時間二十四分第三は何れも自轉一致する結果を得た。一八九七年ダグラス氏はローエル天文臺に於て第三衛星の地圖を畫き運河狀の模様を示した。第一衛星が楕圓形なるを確かめ第三四衛星の自轉一致するを知つた。同時にセイロン島のモーレスウォース氏は十二吋カルパーにより第一の楕圓形なるはパーナートの如く赤道帶の輝きによるを知り第三衛星の圖を作つたが發表されなかつた。ブレンネル氏はダグラス氏の觀測を整理し第一の自轉時間は十二時間二十四分第三第四の自轉一致を知つた。モーレスウォース氏は一九〇三—一五にも觀測したが問題は解決されなかつた。一九〇四年スヘインのコーマスソラ氏は第三衛星の早自轉を觀測した。引續き觀測したが一九〇七年の觀測には明かに變化する模様を見た。一九〇八・九年にはヨツハネスパーグのインネス氏は九吋クラブにて衛星の形状を觀測有力な研究を發表した。エリソンホークス氏は一九一一年十八吋カルパーにより斑點を觀測した。一九一四年英ステアアンソン氏のインネス・ホークス及自身の描畫により公轉より約一時間短い自轉時間を得て居る。一九一六年ウオターフイルト氏はクツク十吋により第四の自

轉公轉相等しきを見出した。最近の最も重要な觀測はワイリツクス氏により八吋クツクにより得られた第三衛星の楕圓率の測定及長軸の綿密なる觀測であつて自轉及公轉のほぼ相等しきを示して居る。此の楕圓率の變化は表面の模様によるものとされて居る。以上の様な經過はあるが殆んど何等問題は解決されて居ない。数十吋の大口徑と數百倍の倍率としかも絶對的の良好なる空氣を要する爲に極めて困難なる問題たるは明白である。

(衛星の表面の如き問題は邦文の書には未だ一回も記せられた事が無い様に思ふ。此の記事は E. M. 誌にマクドナルド氏が記載せられたものより記したものである。)(中村)

●故マークワイツクス佐 (Mr. Markwick) 英國の素人天文學界は著名なマークワイツクス大佐を去る七月七十二歳で失つた。氏は軍人であつたが趣味とせる天體觀測に於ては世界の素人に於て著名であつて二十歳の青年の頃すでに天體に對する趣味は養はれて居つた。氏の趣味は多年の太陽と變光星の觀測によつて表はされて居る。八吋半カルパー經緯臺によつて行はれた變光星の觀測は英國天文協會の變光星部の報告の總てにわたつて居り數萬さいふ多數になつて居る。長週期星の觀測者としては英國に於ける第一人者であつた。二・八吋エリオット赤道儀は氏が海外駐在中にも使用せるもので五十年近く太陽表面の連續觀測を行つた。又近年求めた四吋クラブ

赤道儀によつて一九二二年より今年一月病の爲中止するまで毎月有力なる太陽観測の結果を詳細に E. M. 誌に發表し數多の讀者を喜ばして居た。たゞ一人の素人の小望遠鏡によつて爲された事業は言へ世界的に偉大且つ貴重なるものである。

氏の貴重な太陽連續観測は中絶されたが英のストラカン氏によつて十時クッククレーテ式望遠鏡により繼續される事となつた。

氏の望遠鏡一切はペーカー社の手を経て賣物に出て居る。四時アラツプ赤道儀時計及度盛環附屬七十五ポンド 四時を入るべきドーム二十七ポンド 微動裝置付きカルヴァアール半徑緯臺三十八ポンド 二一八時エルオフォー赤道儀木製三脚臺二十ポンド(中村)

●プロツキ氏の青寫眞圖 イタリーのハーゲン師の天圖の青寫眞複寫圖が發賣された事は御承知と思ふ。最近現物が到着したので將來間違ひの無き爲に必要な説明をしておきたい

原圖はハーゲン師が米ジョーシタウ天文臺に於て十二時屈折により作製されたもので十三等星總てが含まれて居るが此の圖は極小期に於て不便を感ずる所から更にヴァチカン天文臺に於て視野の中心十分の内に十四等を観測して原圖を補ふ爲に作られたものである。従つて此の圖は小口徑の望遠鏡では甚だ困難で先づ六時級を要する。又多くの場合狭視野の上圖に含まれる最大の星が僅か十二等に過ぎぬ事が多い。通常十等以下であるからハーゲン氏の A S V の原圖或は A A V S

〇等の大型の圖を必要とする。三時四時では使ひ難く餘り價値もないが中口徑の望遠鏡で極小の觀測には絶好の圖である。(中村)

●スレード氏の反射鏡 最近に廣告を出した英の反射鏡製作者スレード S. 氏へ値段を問合はせた所左の通りの親切な申込みがありました。

貴下の意見の通り反射鏡の名譽の爲に一つとして不完全な反射鏡が日本に輸入されてはならぬと思ひます。自分の反射鏡製作は趣味の爲めて生活費を得る爲ではありません。私は英に於ける最良の製作者と知られて居るカルヴァアールやエリソンの鏡よりも良いと自信して居ります。此の事を確める爲に是非自分の作つた最善の六時半を試みてもらいたいと思ひます。

現品。六時半鏡 焦點距離四十七時半 小平面鏡を含む。鍍銀して兩方にセル及び蓋なつて價格十ポンド

拋物線鏡の裏面は平面鏡試験の爲完成せる三平面の一つで光學的試験に用ひ得る最良の平面である。註文には半金即ち五ポンドを拂ひ品物到着後試験に通過後五ポンドを申受け。不満足で鏡を返されたなれば現金を返す。

スレード氏は古くより名を知られて居た人でエリソン氏の教えを受けエリソン氏の自慢せる一人である。従つて製品には間違ひないと思ふ。殊に此の現品は試験の爲め送られるべ

きもので購入すれば二十ポンドを價する平面を兼ねる。希望者は自分宛に知らせてもらいたい輸入事務は小生責任をもつて行ふ。(中村 要)

●一新星? ドイツのハイデルベルヒ天文臺長マクス・ナルフ教授は近頃鷲座に一つ新星らしいものを發見した。位置は赤經一九時二七分二四・七秒 赤緯(南)六度三五分一〇秒 (一九二五〇)

で、光度は八・七等級であるが、こんな星はボン星表にも無く、又、近頃まで如何なる天體寫眞にも現れなかつた。若し之れが新星でなければ、多分、或る珍しい型の一新變光星かも知れない。

●セラスキ博士逝く 前のモスコウ天文臺長ネトルド・セラスキ(Wilhold Caraski)教授は近頃七十六歳で逝去した。教授は天體寫眞研究をもつて有名であり、同夫人は此等の寫眞板により多數の變光星を發見したことで世界に聞こえてゐる。

●彗星だより コペンハーゲンからの電報によると、去る十月九日ロシアのカルコフ天文臺のパラバシエフ氏は赤經二二時 二分二八秒 (一九二五〇) 赤緯(北)五度二七分

に十五等級の一彗星を發見したといふ。但し運動の方向や其の後の状態不明。又後報によれば、去る十一月十七日米國ヤークス天文臺のグンビースアルク氏は一新彗星を發見した。光度は八等。

ず自動車で吾々六人は日本人青年會館に行き、それから、更に吾々と森氏との三人だけはコンノート路の大西氏宅を訪れた。皆々天文友達ばかりである。

夜八時から自分は日本人青年會館で天文熱心家たちのために一場の講演をし、後、案内されて大西氏宅にさまる。——氏が最近手に入れたツアアイス製四吋口径のハイカラな赤道儀望遠鏡を見た。

二月二十八日(土)

朝、暫く大西氏と天文に關する話をする。氏のために四吋望遠鏡室の設計や場所を定め、又、近刊の天文書を一覽した。十時から森氏の案内で上海の市街所々を見物し、正午には青年會の前田氏に招かれ神戸から來遊中の久留氏を加へ、五人で午餐をいたぐ。

午後一時、上海出帆。——夜は小泉氏とおそくまで歐米旅行の印象を話し合ふ。

三月一日(月)

朝九時半から日本人九名が集まつて小集會をし、黒崎氏が説教した其の後、小泉氏を中心としたパレストナ旅行談があつた。

船は一路鹿児島を指して進む。正午の位置、北緯三十一度六分東經百二十六度四十七分。海面極めて平穩である。——午後、森川氏に案内されて、自分と英子とは船橋、海圖室、無線電信局、機關室等を見た。

京都の川崎氏と電報の往復をする。いよく日本が近い。

三月二日(月)

朝早く鹿児島島の佐多岬沖を過ぎ、土佐灘に進む。北風が強く、横波を擧げ、船のローリングが可なりあつたけれど、船客は皆いそいそと上陸の準備をしてゐる。

正午、北緯三十一度四十七分、東經百三十二度二十六分。

三月三日(火)

朝六時、船は神戸の和田岬沖に到着。検疫や税關検査を受けてゐる間に、更に進んで神戸港第四突堤に着いた。——自分等は多くの親族朋友たちに迎へられ、上陸後、一旅館に少憩其の間に閑をぬすんで、

自分は森下氏等の道案内で海洋氣象臺を訪問。川上氏に迎へられ、十時赤道儀や子午儀や太陽分光器など、天文部の主要設備を見せて貰つた。

午後二時過ぎ神戸三宮發、同四時半なつかしい京都驛に着、新城教授を始め、多くの方々に迎へられた。

前後二ヶ年半にわたる自分等の外遊も之れで全く終りを告げたわけである。(終)

○彗星發見二)

十一月十九日、コンベンハーゲン天文臺なる天文電報中央局からの電報によれば、去る十一月十七日十一時三十一分九に米國ヤーキース天文臺のザンベイスブルツク教授は

赤經 十一時五六分三二秒 毎日東へ一分

赤緯 (北) 三四度五六分 同 南へ二一分

の所に八等級の一新彗星を發見したといふ。二十日夜以來、京都でも之れを朝早く東天に觀測してゐるが、東北方に尾を見せてゐる。之れ今年度の第十彗星である。

又、次いで十一月十八日にベルリン大學天文臺のザルク氏は

赤經 十七時 一分三七秒 毎日東へ十七分二〇秒

赤緯 (北) 三五度二八分二〇秒 同 南へ 二度三〇分

の所に一新彗星を發見した。光度は七等。京都大學では二十三日の日没から觀測してゐる。之れが今年度第十一番の彗星である。

右、何れも光りが大きく、又、便利な位置にあるから三時ぐらゐな望遠鏡の所有者は觀望し得るだらう。

○中村要氏 一年志願兵として野砲兵第二十二聯隊に勤務中であつた同氏は十一月末除隊となり、大學天文臺へ歸られる筈。